

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3072400314
法人名	社会福祉法人串本福祉会
事業所名	潮岬あゆみ園
所在地	和歌山県東牟婁郡串本町潮岬659 (電話)0735-62-7122

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	平成21年1月9日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成11年6月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	13人, 非常勤 7人, 常勤換算 14.4人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000/50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1		1 名	要介護2		5 名	
要介護3		9 名	要介護4		3 名	
要介護5		0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	84.2 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	国保 串本病院、中松歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲は緑に囲まれた事業所で、近隣には住宅が建ち並び、平成19年10月オープンした施設の一角には新たに1ユニットが増設されている。道路に面したフェンスには地元の小学生の絵がずらりと掲げられ、中庭には鶏が飼育され、陽だまりでは猫が昼寝し、皆で見守り育てている。併設の施設が建設されたことにより、管理者、職員とも意気込みが感じられ、家庭的で温みのあるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域の中で地域住民の交流の下、その人らしい生活を実現出来るよう、これまでの理念を職員全員で見直し、当初からの「明るく、ゆったり、いきいきと」を基本に「1. 心身の健康2. 家庭的な雰囲気3. 地域とのつながり」を盛り込んだ理念を作り上げ、玄関に掲げられている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者のシートをもとに、職員全員で意見を出し合い、サービスの質の向上に努めている。前回の外部評価の課題については、ユニット毎に管理者が出席しての検討会で意見を出し合い、地域密着型としての理念を作りあげている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的に行われ、情報提供を積極的に行い、意見は全て会議録にまとめ、サービスの向上に役立っている。また、メンバーである区長の意見で広報(園便り)を区の回覧に取り入れ、区に自主防災の協力も得られ、災害時には区内放送してくれるよう積極的な意見によって実現している。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱は玄関に設置され、苦情、相談の受付も明示している。運営推進会議に家族代表も出席して質問も出されている。花火大会や食事会等で家族同士の交流もあり、意見の表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の草刈りや清掃活動に毎年2回職員が参加する。小・中学校へ管理者が出前授業をし、小・中学生が体験学習で施設を訪れ、相互交流している。小学校の運動会に利用者が招待され競技に参加して、地域の一員として交流している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を職員全員で見直し、当初からの「明るく、ゆったり、いきいきと」を基本に「1. 心身の健康2. 家庭的な雰囲気3. 地域とのつながり」を盛り込んだ新しい理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型としての理念の見直しを職員全体で取り組んだことでより共有でき、管理者が定期ミーティングや日常的に話し合い、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の草刈りや清掃活動に毎年2回職員が参加している。小・中学校へ管理者が出前授業をし、小・中学生が体験学習で施設を訪れ、相互交流している。小学校の運動会に利用者が招待され競技に参加して、地域の一員として交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者のシートをもとに職員全員で意見を出し合い、サービスの質の向上に努めている。前回の外部評価の課題についてはユニット毎に管理者が出席しての検討会で意見を出し合い、地域密着型としての理念をつくりあげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的を開催し、メンバーの区長の意見で広報(園便り)を区の回覧に取り入れてもらい、区の自主防災の協力も得られ、災害時には区内放送してくれるよう積極的な意見によって実現している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場担当者とは、種々届出書等提出時に役場に出向いたときは必ず訪問し、事業所の実情やサービスの取り組みについて伝えるようにして関係づくりをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶりについては、家族の面会時に伝えている。遠方の家族には電話や希望者には記録のコピーを毎月送付している。園通信は2～3ヶ月に1回家族向けに発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は玄関に設置し、苦情・相談の受付も明示している。運営推進会議に家族代表も出席して質問も出ている。花火大会や食事会等で家族同士の交流を通じて、意見の表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット増により、やむを得ず職員の異動したが利用者に落ち着きがなくなり、対策として落ち着くまでユニットの往來を促し、馴染みの職員との関係が保てるように配慮した。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には日程の合う職員が参加し、研修資料をファイルに綴じていつでも誰でも見られるように工夫している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と管理者同士は交流・相互訪問もしている。	○	近隣の同業者との職員間の交流を通じてサービスの質の向上に取り組むことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学して貰うことから、体験デイサービスや体験入所を経験してもらい、職員や利用者にも馴染んでもらい家族等と相談しながら支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごすことにより、生活の知恵を教わったりできるように工夫され、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護チェック表に記入し、会話の中で一人ひとりについて思いや意向についての把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、職員からはミーティングで意見を出し合い、それぞれの意見や要望を盛り込んで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアチェックシートや、毎月のモニタリング等により見直し、変更を行い、家族等関係者の要望をふまえ新しい介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外泊の支援や通院介助も行っている。医療連携体制加算の指定も受けて、医療面の支援体制が整備されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の診療所の往診を月2回受けている。かかりつけ医の受診や専門医の受診についても対応されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については、契約時に説明し同意を得ている。また、終末期については関係者で話し合い対応指針を定めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に尊厳をもって利用者の誇りやプライバシーを傷つけないよう十分留意するよう徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にされ、職員も見守りながらゆったりと接している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで声かけをしながら楽しく食事をしている。食器洗い、食器ふき等利用者一人ひとりの力量に配慮しながら食事の後かたづけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に合わせて対応している。デイサービスのように入浴荷物をもって、浴場に入る姿を見かけることもあり、一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴や得意分野で力が出せるように支援している。掃除機やほうきはいつでも使えるように立てかけていたり、食器ふきや洗濯物たたみも一人ひとりの得意に合わせて場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	園周辺の散歩、地域の催し、行事へは積極的に出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に入居者に気を配っているため、日中は玄関に鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いの避難訓練では地域の自主防災会にも協力してもらえた。地域の協力体制は区内放送や地域の自主防災会の協力が得られることになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量は記録している。水分量は体調不良時は記録に残し不足しないよう支援している。毎朝のメニューに手作りポタージュスープを、便秘解消にアロエジュース(手づくり)を飲用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物、似顔絵等が飾られている。ソファやイスが適所に置かれ、何処でもくつろげるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には似顔絵が貼られていたり、名前の周りに入居者の仕事に関係ある品々の絵や趣味に関係の絵や写真が添えられている。居室にはなじみの小物や写真、使い慣れたタンス等が置かれ、安心して過ごせるように配慮されている。		